



ドクター・ワッシー

診察室 ざくばらん

飲む、飲まない どっち選ぶ？

高齢者に血液サラサラの薬

クリニックは、4日が仕事始めた。正月気分なんか、すでに何処かへ吹き飛んでいる。

85歳のAさん。脳梗塞の予防に、「血液サラサラの薬」を飲んでる。大騒ぎするワケは、脳梗塞の再発のことではない。「こも、こも」と指さすのは、皮膚のアザである。皮下出血である。薬のせいだ、出血は止まりにくくなる。それは、何かにぶつけたかねじったか、外傷のせいだろう。というのに、「こんな出血が脳にできたら？」とパニックなのである。

脳出血や消化管出血という副作用は、めったに起きるものではない。しかし、どうしても出血が怖いとい

うなら、薬を中止してみるしかない。

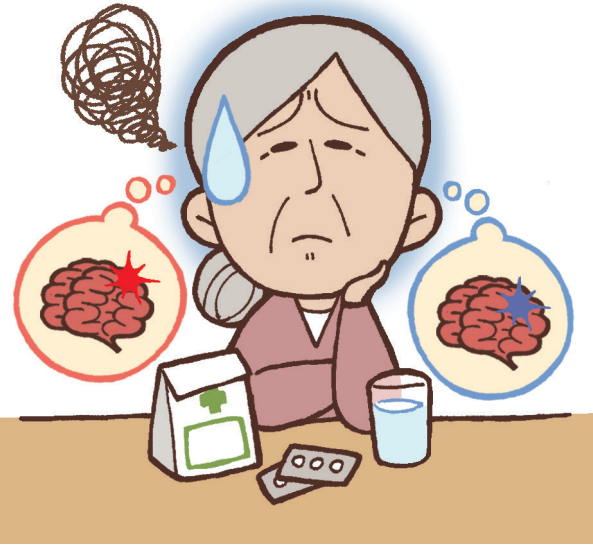
ところが、年齢を重ねるとともに、脳梗塞の危険性も高まるものだ。薬を弱いものに変えてもよいが、中止するのはコワイ。いっぽう、高齢になるほど、血管は弱くなる。薬を体から排出する「薬物代謝」も悪くなる。薬を止めない限り、皮下出血はもちろんだ、脳出血などの副作用も起きやすくなってしまふ。

実は、「80や90の高齢者に、いつまで血液サラサラの薬を飲んでもらうのか？」と問われて、医師は誰も答えられないのだ。そのほうの文献が限られるからだ。となれば、どうするかをAさんに決めてもらったほうがよいのではないか。それが、インフォームド・コンセント(説明と同意)ではないのか。結果がどうであれ、自分で決めたことなら納得できるはずだ。

ところが、Aさん。「それは、センスが決めること」とどげんとしている。ウーム。80歳過ぎのひとたちは、パターナリズム(父権主義)という昔の医師のやり方に慣れている。当然と思っているのだ。そうか。頼りにならない医者で、申し訳ない。これが、ワッシーの反省初めである。

まあ、「サル並み」と笑ってくれ。(石黒修三 いしぐろクリニック)

・脳神経外科専門医、金沢市在住、射水市出身)



イラスト・野畑桃花